Monthly Report

SENDAI UNIV. PUBLIC RELATIONS

Vol.201 / 2023 .JAN (月1回発行)

川平キャンパスが完成、川平地区第二期再整備事業の竣工式を挙行



竣工式後の集合写真

本学を設置する朴沢学園が進めてきた仙台市川平地区再整備事業の 第二期工事が完了し、12月28日(水)に仙台大学川平キャンパスで竣 工式が行われました。

式には朴澤理事長はじめとする学園関係者、岡校長などの仙台大学 附属明成高校関係者、本学からは髙橋学長、松本副学長らが出席して 完成を祝いました。

既に完了している第一期工事で附属高校の新校舎と法人本部、本学 川平キャンパスの一部が建設され、今回の第二期工事では、本学・附 属高校共用の体育館、附属高校校舎とつなぐ連絡橋、本学の研究棟で ある「川平KMCH」が完成しました。

朴澤理事長は「半世紀前の計画に示されていた仙台大学の川平キャンパスとしての活用、そして仙台大学附属明成高校の新校舎による教育がいよいよこの地で実施できるところとなりました。川平KMCH

(KAJIMA MEMORIAL CLUB HOUSEの略称=鹿島建設がグループの力を結集して建設)は、船岡KMCHともども、両キャンパスの「臍」に当たるエリアに配置しており、その活用は、まさに『新しい器に盛る、魂のこもった中身』の創生であり、7年間の高大接続教育を実践するべく、より一層の努力と精進を重ねて参ります」と決意を新たにしました。



川平KMCH

〈目 次〉

- ・川平キャンパスが完成、川平地区第二期再 整備事業の竣工式を挙行
- ・部活動の地域移行について島田達二氏が講義を行いすした
- ・韓国光栄女子高等学校柔道部が本学柔道部 と合同練習
- ・令和4年度学位論文審査会を開催しました
- ・本学広報誌「S.U.N.32号」発行のお知らせ
- ・「高校スポーツの安全を守る」Vol.57
- ・DANDANDANCE&SPORTS19th 開催のお知らせ

学生の活躍や、取り組みなどを ご存知でしたら広報課までお寄せ ください。

Monthly Reportで紹介する他、 報道機関にも旬な話題を提供して 参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp



部活動の地域移行について島田達二氏が講義を行いました

1月16日(月)、東京ヴェルディ・バンバータアカデミー統括ヘッド コーチの島田達二氏に来学いただき「部活動とクラブチームにおける指導 の違いから見る部活動の地域移行について」について講義をいただきました。

島田達二氏は元・高知高等学校硬式野球部監督で9回の甲子園出場へ導き、現在は2019年より、総合クラブ化を進める東京ヴェルディと提携し、部活動環境が縮小する中、地域クラブの受け皿としてアカデミー、スクールを運営しています。

講義は、ご自身が教員からクラブチームの指導者へ転職したきっかけ や、部活動とクラブチームにおける現状と課題などご自身が経験し、感じ たことを受講生へ話してくれました。



受講生からは「多種多様なクラブや部活動がある中、決断の多さが成長に大きな影響を持つことを知りました」、「これからの時代は自分たちの発想、想像が世の中のしくみを変えていくと感じました」、「地域クラブや部活動の実情が良く分かりました」などの感想があがっていました。

韓国光栄女子高等学校柔道部が本学柔道部と合同練習



ヒュン・スクヒ氏から指導を受ける本学学生



寝技の取組み練習

韓国の高校女子柔道でトップチームである韓国光栄女子高等学校柔道部が、本学柔道部と1月23日(月)~1月30日(月)の期間で合宿を行いました。

今回の合宿は韓国光栄女子高等学校の監督である、玄 淑姫(ヒュン・スクヒ)氏 (1996アトランタ五輪52kg級銀メダリスト、2020東京五輪IJF公認審判員)と本学柔 道部女子の南條和恵監督が現役時代からの交流により実現しました。

玄氏は「仙台大学柔道部の優れた寝技の技術や自主的に学ぶ姿勢を学ばせたい」と 今回の合宿の目的を話し、本学柔道部女子主将の小坂愛美さん(現代武道3年)は 「韓国の選手と実戦的な練習ができる貴重な機会。今後のレベルアップに繋げたい」 と話してくれました。



ヒュン・スクヒ氏



令和4年度学位論文審査会を開催しました

今年3月修了予定の大学院生10名を対象とした、学位論文審査会を1月17日~20日に実施しました。この審査会は、教職員、大学院生、学生に公開制で開催され、中には、来年度入学する学部学生が真剣なまなざしで傍聴する姿もありました。

審査を受ける大学院生は発表の後、審査員である教員からの質疑に応答しました。修士課程の集大成となる発表を前に、緊張し落ち着かない様子が多く見られましたが、終了後は緊張から解放され安堵した様子でした。

この後、論文審査を経て合格した大学院生は、大学院修士課程を晴れて修了することができます。

<大学院事務課>







本学広報誌「S.U.N.32号」発行のお知らせ

本学の行事や教育研究活動および学生・同窓生に関わる課外活動の取り組みをお伝えしている広報誌「S. U. N. 32号」を発行しました。

今回は「卒業記念座談会:いま振り返る私たちのリアルな学生生活」や「女子駅伝ブロック設立の目的と今後の目標」といった内容を紹介していますので是非ご覧ください。



<u>S. U. N. 32号</u>



「高校スポーツの安全を守る」Vol.57

助手 浅野 勝成

新年あけましておめでとうございます。高校の各競技では、年明けの1月には新人大会などが開かれます。その後の2~3月は公式戦や交流試合などが比較的少ないオフシーズン期となり、トレーニングに重点を充てる期間となります。また、新年度からの準備も進めていく時期でもあり、その中でも特に重点を置いているのが新入生へのトレーニング計画です。早い部活動では2月頃から高校の練習に参加するため、その際に自宅で行えるトレーニングの説明を行います。独自で作成した紙資料や動画資料の配布を行った上で説明を行います。主なトレーニング内容は、筋膜リリース、静的ストレッチ、およびモビリティドリルといった構成となり、関節可動域の増加と筋柔軟性の向上を目的とします。この背景として、入学以降にウエイトトレーニングを開始するに当たって、関節可動域の制限や筋柔軟性の不足がある場合だと正しいフォームの習得が難しく、結果としてウエイトトレーニングによる恩恵(最大筋力や筋パワーの向上など)を受けられない期間が長くなってしまいます。それでは、高校3年間という短い競技生活の中で充分に身体能力を高めることは難しくなってしまいます。そのため、入学時点もしくは入学後数か月以内に充分な関節可動域や筋柔軟性を有している状態が望ましいのです。高校3年間で有意義な競技生活を送ってもらえればという想いを込めて、新入生向けのトレーニング計画の作成を進めていきたいと思います。







~仙台大学教職員の共通理解事項~

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園(明治12年開設)の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探求することに継承されてきた。なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能力を鍛えた心身ともに健康である人間をつくることであり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科(修士課程)も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみることが好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命·目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、 社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、運動栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 (リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください)

- ■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(仙台大学学則別表第一)
- ■3つのポリシー <u>①学部</u> <u>②大学院</u>

③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科

⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

- ■朴沢学園中期経営計画
- ■事業計画